



### 「口は一つ、耳は二つ」

- ・かづの校では、今週から在校生の保護者との懇談がスタートします。経験がその人をつくり出しているのです、人の考え方は、「経験」に左右されることが大きいと思います。私たちは保護者と全て同じ経験を積んでいるわけではないので、100%理解し合うことは不可能に近いと思います。したがって、話す内容が、全て保護者に正しく伝わることは難しく、むしろ正しく伝わらないことのほうが多くあります。全部伝わらないのが当たり前と考え、少しでも伝わる努力をして誤解を防ぐ必要があります。

#### 〈保護者面談でミスコミュニケーションを防ぐポイント〉

- 1 複数で面談に臨む（複数で対応することで誤解を防ぐとともに、安心感を与える）
- 2 面談に見通しをもたせる（事前に内容・場所・メンバー・終わりの時間を確認する）
- 3 主語と数字をはっきり伝える（曖昧さがなくなると保護者とのつながりも深くなる）
- 4 最初に子どもの頑張りを具体的に伝える（保護者の心を開くきっかけになる）
- 5 笑顔を忘れない（笑顔は言葉を超えた最高のコミュニケーションツールである）
- 6 ○○さんのお父さん、お母さんと名前を呼ぶ（相手を大切に思う気持ちが伝わる）
- 7 家庭での様子や小さい頃の話を探ねる（保護者の頑張りを認めることにつながる）
- 8 共通の話題やかみ合う部分を見付ける（相手との心の距離を近付けることができる）
- 9 細かい記録は取らずに、後で整理する（記録はキーワードのみとし、能動的に聴く）
- 10 次年度の学校生活や進路と結び付ける（常識にとらわれず、期待と情報を伝える）

- ・ミスコミュニケーションを防ぐためには、「聴く」ことも大切となります。人は話すことで心が癒やされます。聞き役になるだけ、保護者の心に大きな変化を起こすことができます。

#### 〈聴くことは一石三鳥〉

- 1 子どもの情報や保護者の心情を知ることができる
- 2 保護者の存在を肯定する行為である
- 3 保護者とよい関係を維持できる



- ・人はそもそも一人一人独特のフレーム（価値観や考え方＝翻訳機）を持っています。その翻訳機を付けて、相手の言ったことを自分に都合のいいように翻訳して聴いています。人は正されたいのではなく、認められたい気持ちを強くもっています。保護者の話を共感的態度で聴くことは、保護者をそのまま認めることとなります。保護者の話を聴いて受け止めることができれば、信頼関係の構築にもつながります。「口は一つ、耳は二つ」、保護者の話したいことを引き出すためのコミュニケーションを心掛けたいものです。